

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和5年度 第4回飯田市上下水道事業運営審議会
開催日時	令和6年1月22日（月） 午後1時30分から午後2時45分まで
開催場所	飯田市役所 3階 C311～312会議室
出席委員氏名	下田一則、田中徹也、菅沼文秀、木下容子、吉川哲史、玉置弘樹、澤口総八、熊谷貴美子、鋤柄富男、池上ゆり子
欠席委員氏名	水口芳昭、大澤幸子、玉置節子
傍聴者	なし
出席事務局職員氏名	佐々木上下水道局長、柳澤水道課長、関島下水道課長、原下水浄化センター所長、村松経営管理課長補佐、筒井経営管理課長補佐、久保田水道課長補佐、竹村下水浄化センター所長補佐、遠山下水道整備係長、加藤庶務係長
会議の概要	以下のとおり

「敬称略とする」

1 開 会

(加藤経営管理課庶務係長)

ただいまから、令和5年度第4回飯田市上下水道事業運営審議会を開催する。議事に入るまでの間、私が進行する。

2 会議の成立

(加藤経営管理課庶務係長)

本日、水口芳昭委員、大澤幸子委員、玉置節子委員から欠席する旨の届出があった。

飯田市上下水道事業運営審議会条例第6条の規定により、会議の成立には委員13人の過半数である7人の出席が必要である。本日の出席委員は10人であり、会は成立している。

3 理事者挨拶

(佐藤市長)

本日は、令和5年度第4回の上下水道事業運営審議会ということで、委員の皆様方には年初めの大変お忙しい時期にご出席いただき感謝申し上げます。また、旧年中は、水道料金改定について何度も審議いただき大変お世話になった。ありがとうございます。

水道料金の値上げについて、「負担軽減策を」というお話をいただいていたが、昨年12月の市議会第4回定例会にて、負担軽減策として現在の物価高騰対策と合わせて市内全ての世帯に1万円給付を行うという議案を可決いただいた。現在給付に向けての準備を進めていて、近いうちに給付に入っていける状態である。

前回の審議会以降、飯田市のYouTubeチャンネルにて料金改定についての動画を公開しており、引き続きしっかり市民の皆さんにご説明していく所存である。

年が明けて1日夕方に能登半島地震が発生したが、200数十名という多くの命がなくなり、現在も行方不明という方もいらっしゃる。そして、被災し避難生活を送っておられる方々が大勢いらっしゃるということで、心からお悔やみとお見舞いを申し上げたい。市としても現地への支援として、震災翌日の2日から5日まで給水支援に、8日から17日までと今現在も、下水道管渠被害調査の応援に行っている。他の部署からも病院、広域消防、そして「チームながの」として罹災証明発行や廃棄物処理業務等に職員を派遣しており、できる限りの支援を飯田市としても行って参りたい。現地の情勢は中々厳しい状況ということで、上水、下水とも復旧

には相当な時間がかかると思う。

私共の地域においてもいつ何時そういう事が起きるか分からないということで、計画的に耐震化を始めとする設備更新を進めて参りたい。

本日の会議では、令和3年3月に策定した下水道事業経営戦略について、3年ごとの見直しということで、今回見直すにあたりご協議いただく。この件に関して、後ほど協議事項としてご審議いただくが、事前に質問いただいた事についても回答させていただく。その中で、吉川委員から特に私にということで質問いただいている。私は後ほど退席しなければいけないので、この場をお借りしてお話させていただく。

資料1-3の質問5が私宛の質問となっている。下水道使用料について、「計画期間内かつ私が現職である期間は値上げをしないと市民に約束するものであると受け取って差し支えないか」というご質問をいただいたが、回答としては、資料1-3に書いてあるとおり、今回の検討期間である令和6年から8年までの間は試算の結果、上げなくても大丈夫であるということで、値上げしないということであるが、その先については、やはり数字を見て検討する必要がある。これは私に限らず、政治家の任期と下水道使用料に限らず料金を連動させることは、私はすべきではないと思っている。政治的な約束のおかげで料金改定をすべき時にできないとなると、将来にツケを残すことになる。これは、やはり数字に基づいて計算し、将来にツケを残さない形で計画的に行う必要があると思っている。料金の改定の必要がないように、計画的にかつ支出を抑えて財源を確保し運営していくというのは当然である。政治家の任期とこういうものを連動させるべきではないと私は考えているので、その旨回答申し上げる。

今回審議を担っていただいている委員の皆様方の任期は、令和6年5月23日までとなっている。まだ数か月あるが、本日の審議会が任期満了前最後の審議会となる予定である。先ほども申し上げたが、水道料金の改定という非常に重い議論を重ねていただき、本当に委員の皆様には大変お世話になった。このことに感謝申し上げます私からの挨拶とする。今年もどうぞよろしくお願ひしたい。

4 会長挨拶

(鋤柄会長)

本日は、お忙しい中、第4回運営審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。

先ほど冒頭の市長の挨拶にもあったが、正月早々に能登で大地震が発生し、大変大勢の方が亡くなられ、本当にお悔やみを申し上げます。また今も避難生活をされていらっしゃる方々にお見舞い申し上げます。

私の記憶によると、正月明けの市長の年頭の挨拶の中で、「これが飯田市で起きたらどうだっただろうと身の震える思いがした。」とおっしゃっておられたと思うが、正直なところ、私も松尾地区に住んでいるので、松尾浄化管理センターが甚大な被害を受けたらどうなるのだろうか、飯田のほとんどの地区の下水が止まることになるのだろうかと考えた。

その後のテレビの報道を見ていると、とにかく水とトイレの問題で困っているということを見ると、いかに重大かを改めて感じた。テレビ画面で道路が波打つような光景を見ると、あれが液状化というもので、あれでは本管もかなりの被害を被ることになると思う。これからも、本当にタイムリーなきちんとした改修計画の必要性を改めて感じた。

飯田市では、早速2日から給水車が出動し、下水道の調査応援にもということで、素早い対応に敬意を表したい。大変ご苦労様である。

本日は、下水道事業についての協議、ウォーターPPPの導入について検討するとなっている。経営戦略については、前回の勉強会以降に質問をいただいているので、その回答と合わせて協議することとなるが、色々なご意見をいただきたい。よろしくお願ひしたい。

(加藤経営管理課庶務係長)

佐藤市長は次の公務のため、ここで退席させていただきます。

(加藤経営管理課庶務係長)

議事に入るが、審議会条例第6条第1項の規定により、会長が議長を務めることになっているため、議長を鋤柄会長にお願いする。

5 公表用会議録において委員氏名を公開することの同意について

(鋤柄会長)

事務局から説明されたい。

(滝沢経営管理課長)

本会議の発言の要旨の公表会議録への記載については、記載する内容についての発言をした委員の確認を得て行うものとする。

ただし、発言した委員の氏名については、会議に出席した委員全員の同意が得られた場合に限り記載するものとしているので、本日の会議録における発言委員の氏名の公開について同意いただけるか伺う。

(鋤柄会長)

ただ今説明があった氏名の公開についていかがか。

(委員各位)

異議なし。

(鋤柄会長)

同意することとし、会議の内容の公開にあたっては、発言された委員の氏名も合わせて公開することとする。

6 協議事項

(1) 下水道事業経営戦略について

(鋤柄会長)

下水道事業経営戦略について、事務局から説明されたい。

(滝沢経営管理課長)

下水道事業経営戦略について説明。

(鋤柄会長)

ただいま上下水道事業経営戦略について説明を受けたが、これについて前回資料をお配りしてあり、それを確認する中で、事前に提出された質問に対する回答を、事務局から説明されたい。

(滝沢経営管理課長)

吉川委員の質問1、2について回答。

(関島下水道課長)

吉川委員の質問3について回答。

(滝沢経営管理課長)

吉川委員の質問4について回答。

(滝沢経営管理課長)

吉川委員からの質問5について回答。

(原下水浄化センター所長)

菅沼委員の質問1 (1) について回答。

(関島下水道課長)

菅沼委員の質問1(2)管路施設について回答。

(原下水浄化センター所長)

菅沼委員の質問1(2)松尾浄化管理センターについて回答。

(関島下水道課長)

菅沼委員の質問1(3)管渠の耐震化について回答。

(原下水浄化センター所長)

菅沼委員の質問1(3)松尾浄化管理センター耐震化、(4)について回答。

(滝沢経営管理課長)

菅沼委員の質問2(1)、(2)について回答。

(関島下水道課長)

菅沼委員の質問3について回答。

(鋤柄会長)

ただいま、事前の質問に対する回答の説明を受けたが、皆さんからご質問等あるか。

(吉川委員)

回答ありがとうございました。5つ質問させていただいたが、今の説明で、質問3、4については分かったが、質問1、2についての回答にまた質問させていただく。

動力費、職員の給与費だが、動力費が見直しによって1.5%、職員の給与費は見直しているが0.5%で変わらず、その他は0.2%という上昇見込みとなっているが、現状の消費者物価などを考えると約2~3%ぐらいの物価上昇率となっていると思う。また、職員の給与費だが、昨年の10月に最低賃金が大幅に上がっているし、今日のニュースで来年度の年金支給額が2%以上上がると、それで春闘の賃上げ目標は4%だというのに比べて、職員の給与費の伸びが0.5%というのは非常に低いと思う。飯田市の職員の方がこれで良いというのであれば文句を言うことではないが、現状の動力費に関しては、現状の物価2、3%より低い、給与費はかなり見込みが低いということで、再度質問させていただきたい。

それと、質問5について先ほど佐藤市長に回答いただいた。こういった公の場で市長の意見をいただき、記録の残る形で発言いただいたということで満足している。

(滝沢経営管理課長)

今後の経費の上昇をどのように見込むかということは、非常に悩ましいところで、3年前にはこれほど物価が上昇するとは誰も予想していなかったと思う。一つの考え方として、借入利率1.5%、動力費1.5%、職員給与費は0.5%という形で、今回見込みを示させていただいた。また、職員給与費については、民間の会社だと新陳代謝等もあるが、同じような年齢の人が一年ずつ段階的に年を取っていく形で給与費を見込んでいくと思う。飯田市では、一般会計と下水道事業会計ということで、一般会計から職員が来て下水道事業会計で担っているということになる。その年度ごとに職員の年齢構成は変化する。年齢の若い職員が下水道事業会計に多くいれば、職員給与費は下がる。逆に、年齢の高い職員ばかりで構成されると、見込みより多くなる。その辺りを考慮し、0.5%という数字を設定させていただいた。

(鋤柄会長)

吉川委員いかがか。

(吉川委員)

ありがとうございました。

(鋤柄会長)

他にはいかがか。

(澤口委員)

経営戦略に関係あるかどうか分からないが、先ほど会長のお話にもあったように、今回の地震で上下水道等大きな被害を受けている。下水道管については、人孔管口可とう化という説明を受けたが、具体的にどのような耐震化の工事をするのか。下水あるいは上水について、教えていただきたい。また、今回のような地震の強度に耐え得るのかも、合わせてお願いする。

(関島下水道課長)

どういった耐震化工事をしているかというのと、人孔の管口の可とう化という説明をさせていただいた。

一般的に地震が起きると地震動によって、地面の中で起こる揺れに対するマンホールが受ける変位と、管路が受ける変位は、やはり違う。マンホールと管の接合部、その部分を今まではガチッと固定されていたものを、ゴムや耐震リングといったものを設置することで、動くようになる。その部分で地震動に対する変位を吸収するというような工事を行っている。今回のような大地震の際に絶対大丈夫とは申し上げられないが、とにかく管が繋がっていれば水は通るということで、このような地震対策を進めて参りたいと考えている。

(柳澤水道課長)

水道管については、現在ダグタイル鋳鉄管GXタイプというものを耐震管として布設替えを行っている。GXタイプというのは、受け口と差し口があり、受け口に管を差し込むと差した方の管に溝が切っており、その溝にロックする機能、そこに落ちることで抜けなくなるという管を採用している。一応、この管は100年耐震性があるということで、現在、主に使用して布設替えをしている。

施設については、現在、更新計画に入っている風越貯水池の耐震診断をしたところ、耐震性がないということで、来年度詳細設計をして施設の耐震化をしていく。主に、隔壁の補強等で耐震化を図る計画である。

(佐々木水道局長)

専門的になるが、水道管路の耐震化について補足をさせていただく。今説明したGX管は鎖構造といい、管路1本1本に可動域がある状態で繋がっている。設計上500mmの管で角度が7度曲がっても良い、それと、6cm可動しても良いというような許容値になっている。

今回の能登のような、地震の液状化で側方流動といって地盤自体が動いてしまった場合には、おそらく対応できないだろうという結果が出ている。ただ、飯田市においては、そのような地盤ではないので、そこまでの懸念は必要ないだろうという判断の中で、この耐震管を布設している状況である。

(澤口委員)

わかった。

(鋤柄会長)

耐震工事の図面もあるので、必要ならば、こういう形で行っているという図面を見せていただければよいかと思う。

(鋤柄会長)

他にはいかがか。

(委員)

なし。

(鋤柄会長)

ただいま説明いただいた下水道事業経営戦略については、そのようなことをご承知おき願う。

7 報告事項

(1) ウォーターPPP導入の検討について

(鋤柄会長)

ウォーターPPP導入の検討について、事務局から説明されたい。

(関島下水道課長)

ウォーターP P P導入の検討について説明。

(鋤柄会長)

ただいまウォーターP P P導入の検討について説明を受けたが、皆さんからご意見、ご質問等あるか。

(菅沼委員)

P P P導入の検討ということで、過去にP F Iというのを検討したが、結局何もなかったという経過がある。先進自治体とはどこのことなのかお聞きしたい。国の制度からいくと、都市部のような効率のいいところを中心に補助メニューを作成するため、山間部あるいは斜面の所はどうしても効率が悪い。こういった制度は馴染まないというのが、今までの知見だと思う。そういったところを踏まえると、私としては、ある程度慎重に考えた方が良くはないかと考える。

2ページ、4今後の進め方に事業費とあるが、検討するのにこれだけ事業費がかかって、これは補助金で賄えるのか。この2点、確認したい。

(関島下水道課長)

先進自治体ということで、糸魚川市に視察に伺って話を聞いて参った。糸魚川市では、水道事業、下水道事業とガス事業も行っており、その3つを含めてコンセッションの検討までを考えているような状況であった。今後どういう風に官民連携というものの検討を進めていけばいいのかという事を中心に話を伺ってきた。それから、飯田市は、下水道研究会という研究会に参加していて、そちらでも、情報交換、情報収集してきている。直接国交省の担当者からどのようなものか話を伺いながら、この場合こうなる等のQ&Aや、文章の解釈といったところも詳しく伺ってきている。

事業費について、令和6年度については、100%の定額補助を受けることができる。令和7、8年度については、資料No.2、1ページ、1に記載してある「官民連携事業等基盤強化推進事業」というものを要望していきたいと考えている。こちら100%の補助となる。こちらが駄目でも、社会資本総合交付金事業の中に官民連携の検討に対する交付金がある。こちらは50%であるが、そういったものを活用して検討を進めていきたいと考えている。

(菅沼委員)

私個人の意見であるが、1番じゃなくても良い。こなれてきてある程度ノウハウが蓄積された後で、それに基づいて取組めば良いというのが、私の個人的な考えであるので、意見としてご承知おきいただければと思う。

(澤口委員)

説明を受けたが、内容がよく見えてこない。現在処理場を民間委託している。管路の設計も民間委託しているか。

(関島下水道課長)

管路の設計は、直営でおこなっている。

(澤口委員)

今どう変わるのか。

(関島下水道課長)

管路の部分でお話すると、例えば、管が詰まってしまったとなると市役所に連絡が来るが、そういったところの通常の維持管理、それから、マンホールを開けて管路の点検やマンホールの点検をするが、そういった点検調査、テレビカメラでの調査、そういったものを根拠に次期改築計画、ストックマネジメント計画を作成するが、そういったところまでを委託するというのが、更新支援型になる。それプラス、設計、改築工

事まで行うのが、更新実施型になる。

現在、管路の維持管理に関する部分、点検調査に関する部分、緊急対応、マンホールポンプ等の維持修繕管理等、それぞれを個別に発注しているが、一括して民間に委託するという形になる。

(滝沢経営管理課長)

補足をさせていただく。資料No.2、2ページ下段、図-2を見ていただくとイメージしやすいかと思う。関島下水道課長から説明があったが、色々な会社にそれぞれ発注していたものをこのウォーターPPPを導入することで、更新支援型であれば、市が一つの民間事業者と契約を結ぶことにより維持管理、修繕等を行うことで、効率化が図れるというイメージである。

ただし、一気にそこまではできないので、管路の更新であれば、従来どおりそれぞれの事業者が発注するという方法もある。下水道事業が一つの会社と委託契約を結んで、維持管理、修繕、改築更新等を行っていくというものが大きく異なる点だと捉えている。

(佐々木水道局長)

もう1点メリットとして補足をさせていただく。なぜ民間事業者を使っていくかということ、下水道の更新は、調査業務をして、その後更新計画を立てていくという流れになるが、専門家の判断によって事業費を最小化したいという思いがある。下水道施設に必要以上の更新をするのではなく、最小限の更新でいきたい。

そのためには、専門的な評価に基づいた更新をしいていく形が一番良い。民間の調査業務に関わるノウハウを利用させていただくというイメージを持っているところである。

(鋤柄会長)

このPPP導入についてよく見えない部分があると、皆さん様に考えているかと思う。メリット、デメリットが明確になってない部分があると思う。当然メリットもあるが、必ずデメリットもあると思うので、その辺りをもう少し見える形にいただけるともう少し理解出来るかと思う。

また、災害時対策等がどうなっているのか見えてこない。その辺りも含めて検討課題がたくさんあるような気がするというのが、私の意見である。

(佐々木水道局長)

私達もまだ理解できていない部分が沢山あるが、検討する中で最適な形を評価していただけるように示していきたいと考えている。

(関島下水道課長)

メリット、デメリットに関して、一番のデメリットは管路改築の補助金がもらえなくなることであると考えている。それなら今のままでも良いのではと個人的には思うが、これが一番のデメリットである。メリットとすれば、先ほど説明したが、個々に発注しているものをすべて当初契約した民間業者へ委託ができる。これがこの事業のメリットかと考えている。災害時の対応だが、ウォーターPPPが始まってからの検討になる。要求水準書というものを契約書に添付するが、災害時の対応について、どのようにお願いするかをきちんと盛り込んで委託契約を結んでいくことになると考えている。

(鋤柄会長)

他にいかがか。

(委員)

なし。

(鋤柄会長)

いずれにしても、これから我々も、色々な資料をいただいて勉強していきたいと思うのでよろしくお願いする。

それでは、ウォーターPPP導入の検討については、このような形で進めて行くということでご理解いただきたいと思う。よろしく願います。

8 その他

(鋤柄会長)

その他、全体を通して委員の皆さんから何かあるか。

(滝沢経営管理課長)

先ほど、澤口委員から耐震化についてのご質問があったが、11月にお配りした飯田市の上下水道の概況、本日ご持参いただいている方はご覧いただければと思うが、41ページ、下段の図2 人孔管口耐震化というイメージ図がある。小さくて恐縮だが、マンホールの継ぎ手の部分に、地震の揺れを吸収するゴムブロック等を設置することで、フレキシブルに自由度を持たせた工事が、人孔管口耐震化のイメージである。ご確認願う。

水道管のダグタイル管の耐震化については、管のモデルを回すので、手に取ってご覧いただきたい。このように、非常にフレキシブルな形で地震の揺れを吸収する構造になっている。補足をさせていただいた。

(鋤柄会長)

その他はいかがか。

(委員)

なし。

(鋤柄会長)

市の方から何かあるか。

(佐々木局長)

本日はお忙しい中お集まりいただき、ご協議を賜り心より感謝を申し上げます。

冒頭理事者から申し上げたとおり、令和6年能登半島地震に対し上下水道局から職員を派遣し、給水支援、下水道被災調査支援を通して貴重な経験を積んできている。上下水道施設は、被災により復旧期間を長期化してしまう基幹施設や緊急輸送路、避難所への経路等影響の大きい施設の耐震化は、まず着実に進める必要がある。災害時、ライフラインを早期復旧していくためには、日頃から自分達が施設を熟知し、被災箇所、被災レベルに応じた最善の対策をイメージできること、災害支援者と復旧計画を立てる上で、正確な施設情報を即座に共有できることが重要であると改めて感じているところである。今回、下水道事業経営戦略とウォーターPPP導入について説明させていただいた。上下水道事業は将来に向けて持続していかなければならない。経年化が進む施設更新評価が難しい下水道事業を、今後どう運営していくか、将来に向けて更新の最適化のための運営、技術力の強化が鍵になると感じている。

今後とも上下水道事業に深いご理解とご協力を願うとともに、委員の皆様におかれましては、お気付きの点などを、気軽に私共にお伝えいただければ幸いである。本日は誠にありがとうございました。

9 閉会

(鋤柄会長)

以上をもちまして、上下水道事業運営審議会を閉会とさせていただきます。